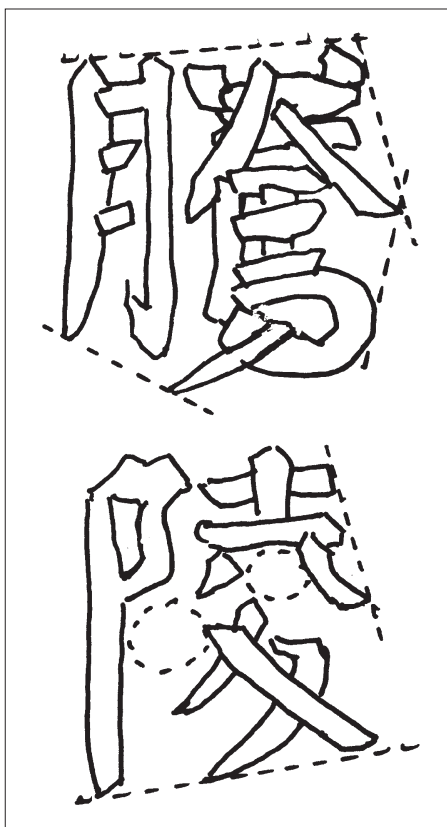


高橋香樹会長担当 半紙臨書課題

(10月22日締切) 出品料440円

裴將軍詩・顔真卿

第一回  
1、字句「騰陵」



2、形式「半紙タテ使用。中央に「騰陵」と臨書し、左余白に落款「○○臨」と書き入れる。

3、概観「先月号でも述べたとおり、顔真卿には楷書の作が多い。若年の「多宝塔碑」などは、一点一画に力を込め、最も整齊な姿を示しており、顔法の起点を窺い知れる作例として珍重すべきである。中年になると、横画の力を抜いて軽めに書き、縦画を強めて均衡を保ち、晩年になると、内に力強さを秘めながらも、筆は柔らか味を増している。年を経るにつれて、広がりのあるスケールの大きさを示し、どれも一貫して向勢の構えで力強さを感じさせる作品群である。

4、各字のポイント

騰 偏は楷書的表现。旁は収画の曲線の表出以外はやはり楷書的。但し、横画は質的に異なる。  
陵 偏の一画目以外は楷書的。「○」は広く余白をとる。

一字書課題

(十月二十二日締切)

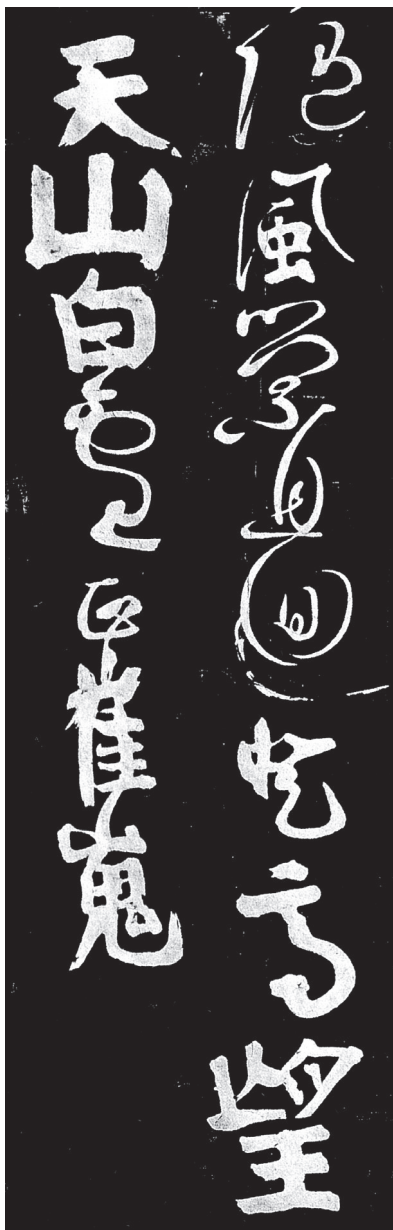
涉

- (1)書体自由 (2)半紙タテ
- (3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる

- (4)出品料 四四〇円
- (5)バーコード券の余白に「一

字書」と記入

条幅随意参考

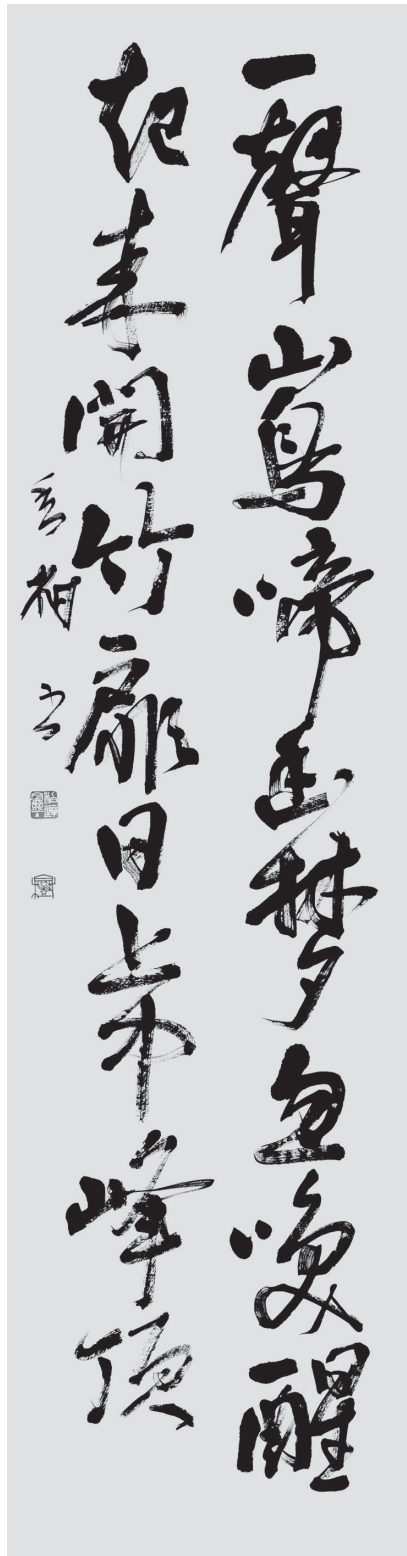


隨風繁且迴 登高望天山 白雪正崔嵬

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部(無料)にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

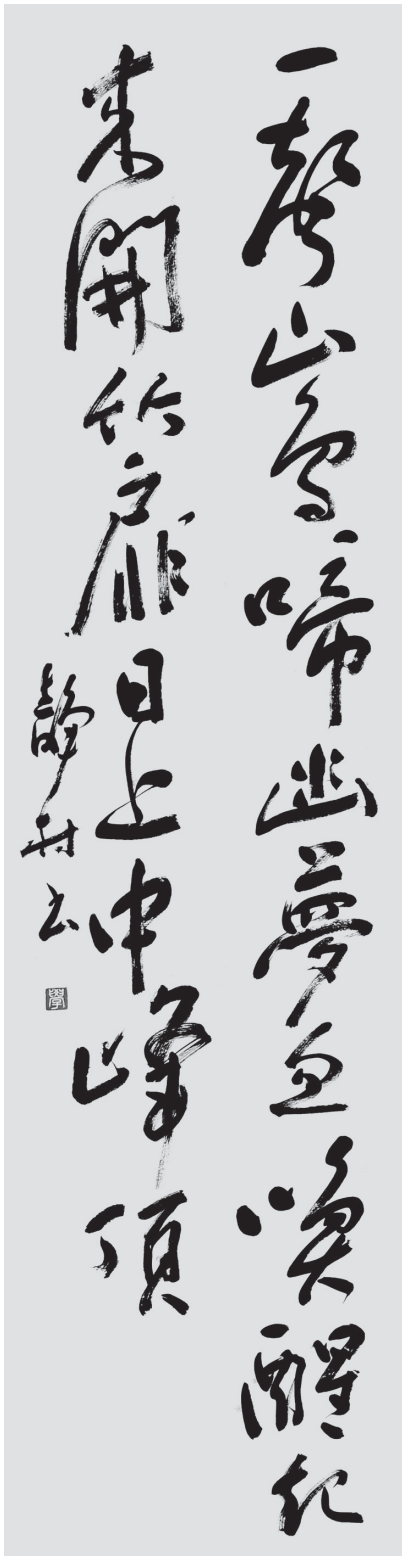
A 高橋香樹会長書

一聲山鳥啼 幽夢忽喚醒 起來開竹扉 日上中峰頂(釈英)  
一声山鳥啼き、幽夢忽ち喚び醒ます。起き来りて竹扉を開けば、日は上る中峰の頂。



B 鈴木静村先生書

今回は二十字の課題。三行書も考えたが二行書とした。小字を組み合わせなければならず、半数を小字とする。連綿線は四ヶ所。文字の大小と連綿線を使って行の流れを表出。「夢」はいくつかあるが、今回は「夢」を使用。墨継ぎは、「忽」と「竹」。



五言(20文字)の課題。布置はセオリーに即して右行11文字、左行の9文字。墨継ぎも右行下辺と左行中央として、「一・喚・日」の三角法でアクセント。墨継ぎ後の「意連」に留意。墨継ぎの三グループ内は、一貫した流れをもち続けていきたい。

訳：山の鳥が一声啼くと、かすかな夢から忽ち呼びさまされた。起き出して竹の扉をあけると、日はすでに中峰の頂に上っている。

予告 (十一月二十二日締切)

夜長月冷蟲鳴急 天闊風高雁過遲 (丁世昌)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

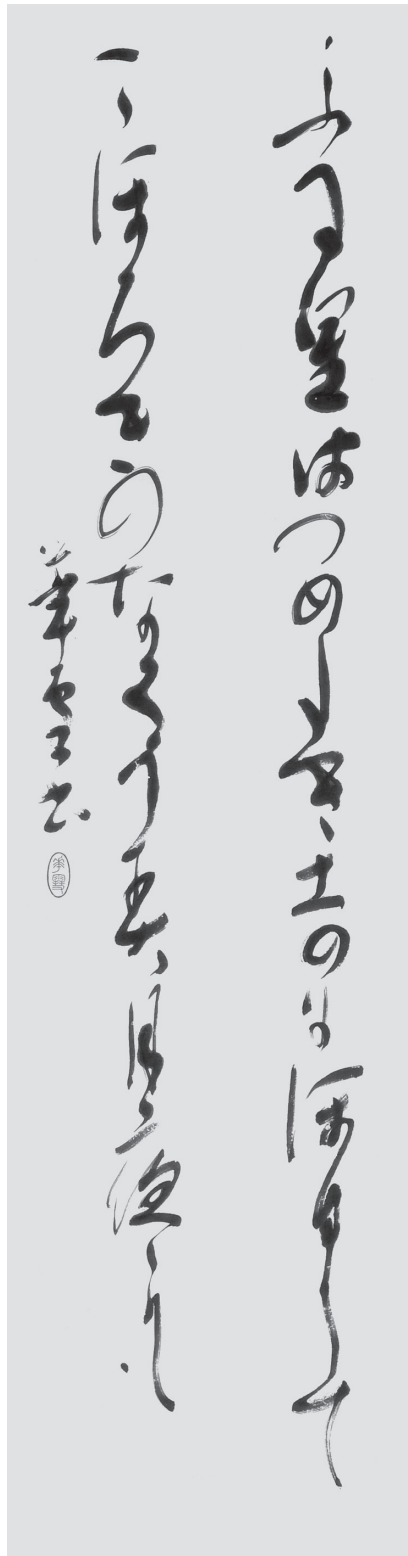
# 条幅部 かな課題参考

(十月二十二日締切)

A

平岡華雪先生書

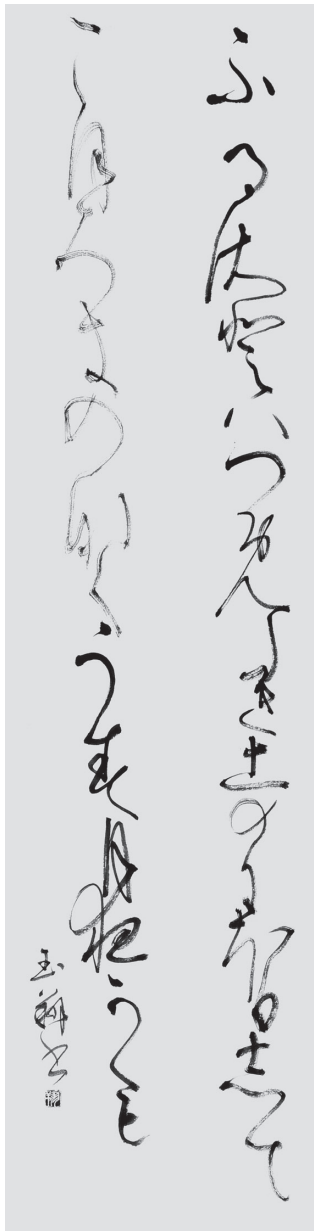
ふるさととはつめたき土のほひしてこほろぎのなくうす月夜かも (前田夕暮)  
ふる里はつめ多き土の尔ほ日してこほろきのなくう春月夜可も



B

福田玉翔先生書

ふる佐登八つ免多き土の尔本日志てこ保る支の那久う春月夜可も



## 学び方

仮名半切は、原則として二行目中間から下辺りで一回だけ墨継をすると、自然に流れて見えます。一行目中間部でい  
わゆるエンタシスの膨らみを持たせて、一行目下部は少し小ぶりに収め、二行目頭は渴筆で少し華やかに見せます。  
そうすると、上部は出だしの潤筆と二行目の渴筆が並んで趣が出せます。書き慣れたら原則通りでなくても構いませ  
んが、初心者はそのように先ずは試してみてください。  
筆は、半紙仮名用と漢字用の中間くらいの大きさの仮名条幅用筆が適しています。常に半紙と半切の両方修練してい  
ると、どんな大きさの紙にも美しく構成できるようになります。

できれば自運(課題を自分なりに創作する)で草稿を作って、それを基に師匠に手本を書いてもらうのが創作の訓練になります。始めから手本どおりにしか書かないと、なかなか自運ができるようになりません。書誌誌に参考手本が掲載されていますので、せめて変体仮名を変えてみるなど工夫し、オリジナルの自運作品を創作してください。

予告 (十一月二十二日締切)

秋はつる枯野の虫の聲たえばありやなしやを人のとへかし (千載和歌集)

藤原基俊

- ◆注意
  - ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部 随意参考

石田愁華先生書

碧雲淡日黄花節 紅樹西風白雁秋（沈名孫）  
碧雲淡日黄花の節、紅樹西風白雁の秋。

碧雲淡日黃花節  
紅樹西風白雁秋

訳：みどりの雲に淡い日かけ、これは九月九日即ち黄花節で紅い木の葉に西風即ち秋風が吹くのは白雁のくる時候である。

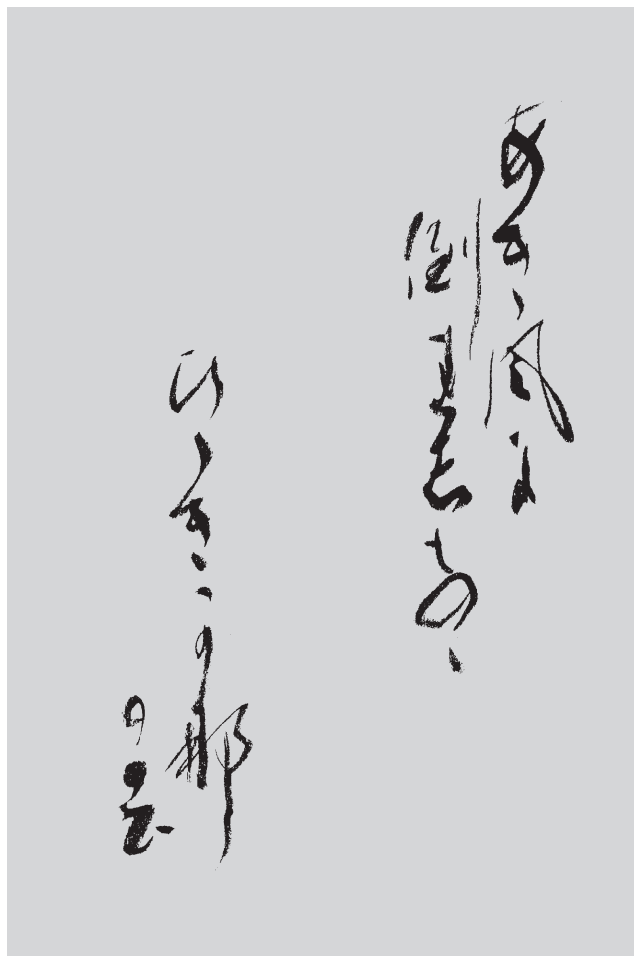
大和田玉玲先生書

秋風の寒く吹くなべ吾がやどの浅茅がもとにこほろぎ鳴くも 万葉集（作者未詳）  
あき可勢の寒九婦久なへ王可やと能浅茅か毛と耳こ本ろ支鳴く茂

あき可勢の寒九婦久なへ王可やと能浅茅か毛と耳こ本ろ支鳴く茂

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
- ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

かな部課題参考 (十月二十二日締切)



(11月22日締切) 木枯や竹にかくれてしづまりぬ (芭蕉)

平岡華雪先生書

秋風に倒れしものゝひびきかな (泊月)  
あき風<sup>に</sup>倒<sup>れ</sup>しものゝひびき<sup>か</sup>な

〈連続への意識ポイント〉  
「ものゝ」は一字として意識して書くこと。  
意識的に捉えることが連続のポイントの一つ。  
尔<sup>に</sup>…ひびきの筆意 連…  
志…  
ま…

漢字部課題参考 (十月二十二日締切)



(11月22日締切) 天清暎露涼 (薩都刺)

平岡華雪先生書  
秋聲<sup>しゅうせい</sup>天地<sup>てんち</sup>の間<sup>かん</sup> (陸游)  
訳：秋の聲は天地間にみちみちて萬物に  
そのきざしが見られる。

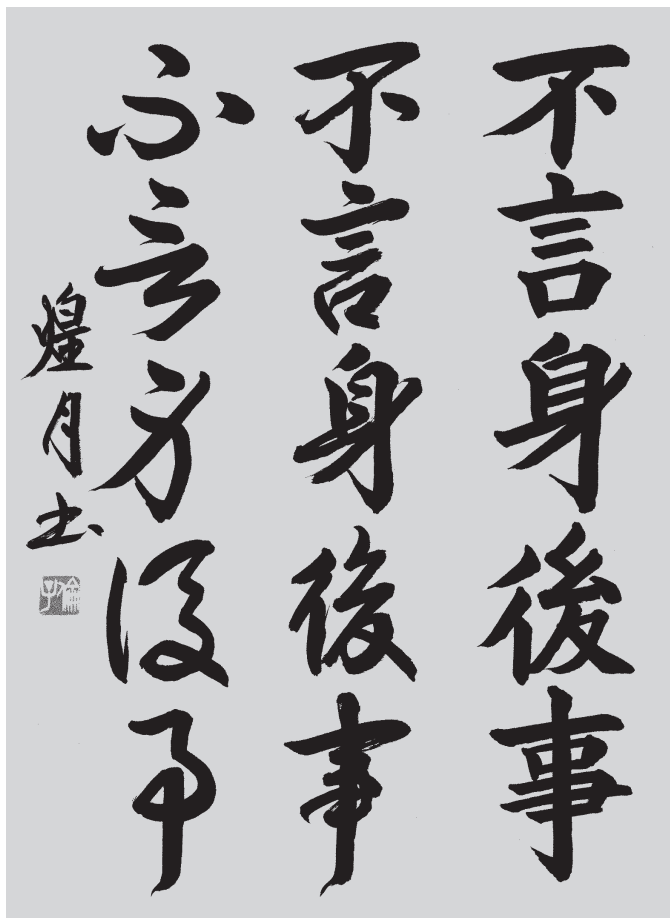
〈特に「右払い」について〉  
右行三文字共、左右の「払い」をもつ。  
この画は暢びやかが基調。右端からは  
み出さないで、しかもものびのびと。



◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

①出品部門(例：「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (十月二十二日締切)



訳：死後の事は何も言わずに、

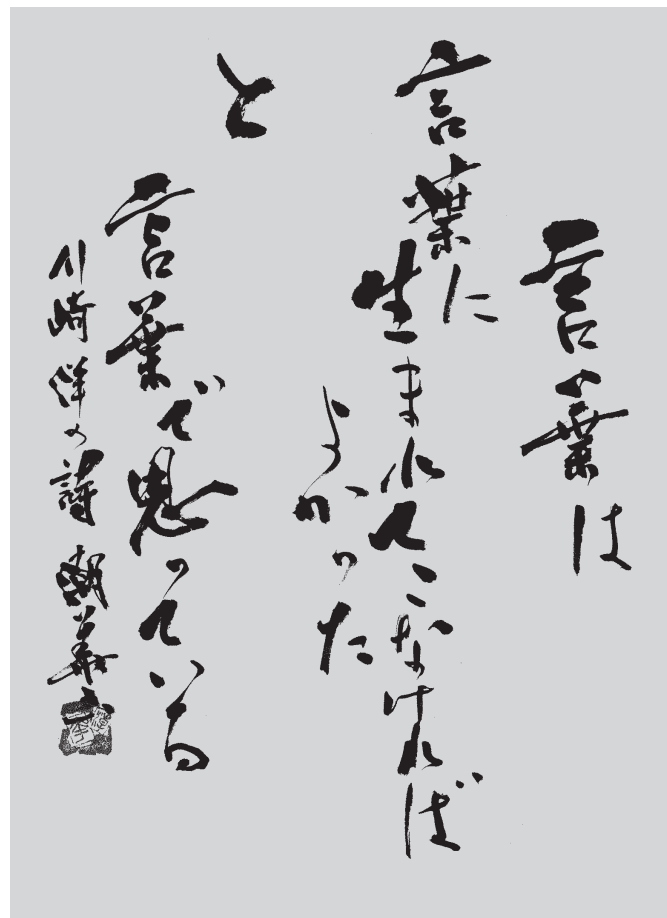
町田煌月先生書

不言身後事(項斯)

身後の事を言わず

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

漢字かな交じりの書課題参考 (十月二十二日締切)

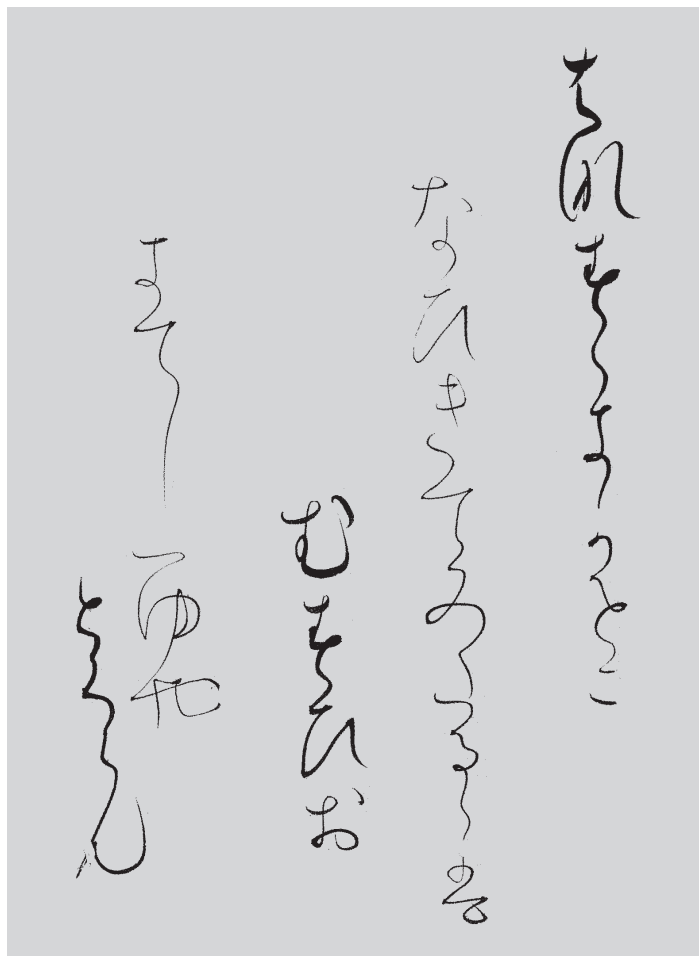


水貝潮華先生書

言葉は／言葉に生まれてこなければよかった／と／言葉で思っている(川崎洋)

(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

随意部参考

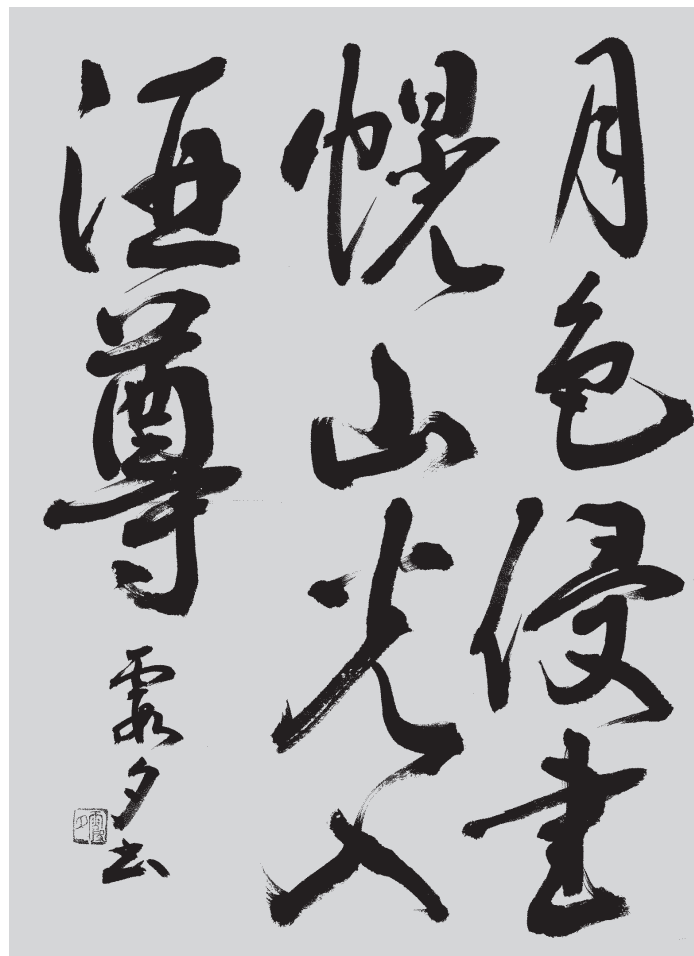


升色紙 伝藤原行成筆

者那春、支可世二なびきてみ多る、盤む春びお支てしつゆやとくらん

訳：さえたる月の光は書齋のとばりを侵して入り、山のかげは酒だるの前に落ちるのである。

随意部参考



外川霞夕先生書

月色侵書幌 山光入酒尊(張丞羽)  
月色書幌を侵し、山光酒尊に入る。

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

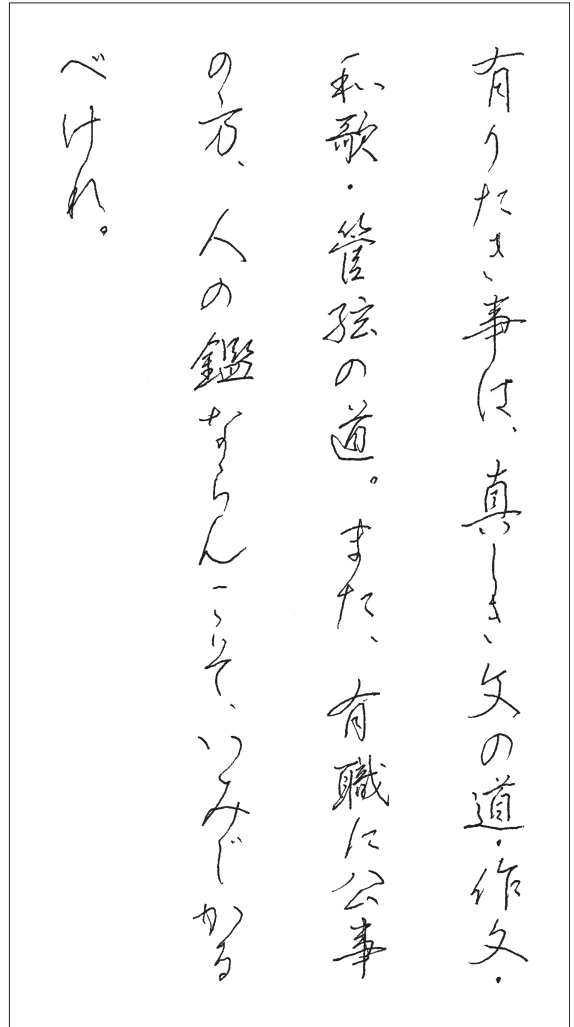
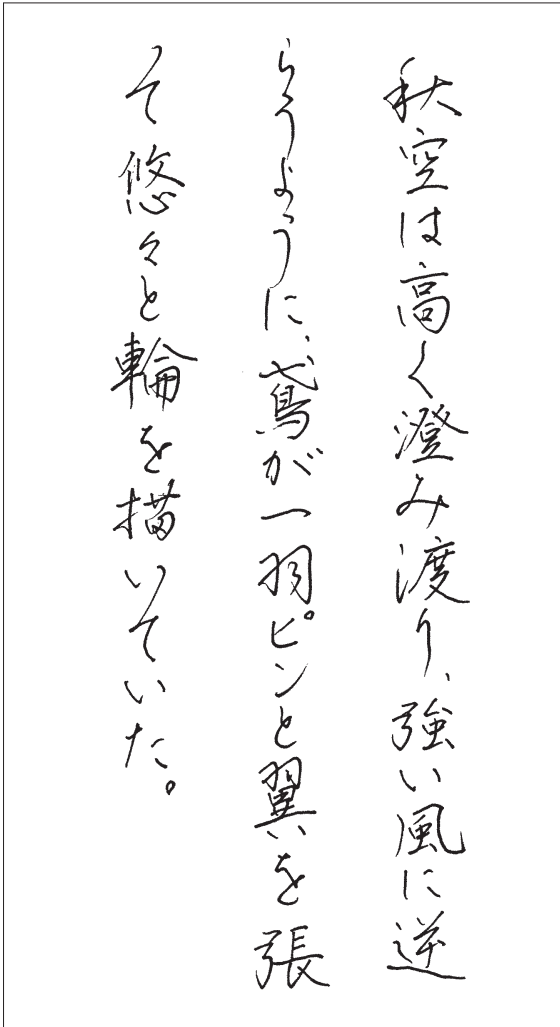


赤木典子先生書

川上香蓉先生書

課題2 (初段格以下)

課題1 (初段以上)



課題1 (初段以上)

有りたき事は、真しき文の道・作文・和歌・管弦の道。また、有職に公事の方、人の鑑ならんこそ、いみじかるべけれ。  
〔徒然草〕吉田兼好

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四六〇円
- (4) ①新
- (5) ④新

課題2 (初段格以下)

秋空は高く澄み渡り、強い風に逆らうように、鳶が一羽ピンと翼を張って悠悠と輪を描いていた。

〔秋風晴れて〕吉田甲子太郎